

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 11 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100454		
法人名	株式会社エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム青崎・みどりの家		
所在地	広島市南区青崎二丁目9-16 (電話) 082-890-6377		
自己評価作成日	平成25年11月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100454-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年11月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

運営理念の「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を大切に居心地の良いホーム作りを心掛けている。入居者様と関わりを深く持ち、日々の散歩や外食、行楽行事等で外出する機会を確保し、入居者様、職員共に笑顔で過ごせる環境作りに努めている。地域の行事へ参加したり、地域の方がボランティアに来て下さったりと地域との関係作りも行えてきた。ご家族様の面会も頻回にあり、良好なコミュニケーションが保たれていると思われる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念を掲げ、居心地の良いホームを作るように取り組んでいる。ここでは、利用者のペースに合わせて見守り、食事の下準備や洗濯物をたたむ作業などを一緒に行っている。また、1日に2回、職員も利用者と一緒に座り、おしゃべりをしてゆっくりと過ごす時間を大切にし、時には、新聞を読んで話し合いをしたり、ゲームをして楽しむこともある。事業所として年間目標を決め、達成に向けて職員全員で取り組んでいる。また、地域の住民が非常に協力的であり、地域住民がボランティアとして「読み聞かせ」「植栽」を行い、利用者に喜ばれている。なお、家族の訪問も多く、外出行事に参加したり、クリスマスの飾りつけを手伝うなど良好な関係ができている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を各フロアに掲げ、常に念頭に置いてサービス提供を行っている。	理念「ゆっくり・いっしょに・たのしく」は、職員がいつも認識できるように各階に掲示し、職員ミーティングで職員に周知している。また、ホーム年間目標を作成し、年2回の個人面談で、理念と共に達成状況を評価している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、準備段階から地域行事に参加している。また、サロンへの参加のお誘いを頂いたり、ボランティアの方が毎月訪問して下さったり、消防訓練には、地域役員、近隣住民の方が積極的に参加して下さっている。中学校の職場体験の受け入れを行った。	町内会に加入し、町内会の掃除や祭りの準備に職員が手伝い、地域のイベント（いきいきサロン・公民館祭など）へ利用者が参加し交流を深めている。地域の住民が非常に協力的であり、「読み聞かせ」「植栽管理」のボランティアとして、ホームで活躍されている。ホームの夏祭りなどの行事に近所の子供たちが参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括からの依頼を受け、認知症サポーター養成講座を実施。 (昨年 当ホームにて 今年 地域集会所にて)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に一度開催。老人会長、民生委員、地域役員、地域包括職員等、毎回、5～8名の方に参加頂いている。ホームでの様子、課題等を報告し、随時、助言、ご意見を頂いている。	運営推進会議には、毎回、多職種の地域住民が多数参加し、活発な意見交換が行われている。出席者の紹介で、地域住民がボランティアとしてホームに来られ入居者に喜ばれたり、地域行事の情報を教えてもらい、入居者が参加するようになった事例もある。	運営推進会議は、活発な意見交換の場となっているが、家族の参加がなく開催されている。今後は、会議の議事録を家族に閲覧して頂き、会議の意義を広く知っていただき、家族の参加を呼びかけて、より有意義な会議にして頂きたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議のご案内を毎回送らせてもらっているが出席頂いたことはない。報告書を提出し、何度か連絡を頂いたことがある程度。	運営推進会議の案内を区介護保険課に送付し、なじみの関係になるよう努力している。地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」の講師として協力している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全上、1階フロア掃出し窓と玄関施錠は行っているが、ホーム内エレベーターや扉には施錠せず。入居者様の希望やご様子によって意向に添えるよう、付添い、外出できるよう支援している。また、敷地内ベンチで過ごしたり、植栽の水やり等で外気に触れ、気分転換を図っている。	ホーム内の研修会で、「身体拘束」を取り上げ、職員に周知している。出入り口は施錠せず、1階と2階は自由に行き来できるが玄関は施錠してある。しかし、外出希望の方に対しては、いつでも職員が付き添い外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア向上委員会を設置し、毎月ミーティングの時にテーマを決め、職員で意見を出し合い、意識付けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、必要性がない為、大まかには理解しているが積極的に学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	法人担当者同席で契約書及び重要事項説明書の読み合わせを行っている。可能な限り計画作成担当者も同席し、入居者様、ご家族様の要望等が把握出来るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に苦情窓口を明記。年2回の家族会やプラン変更時等の担当者会議、日々の面会時にご意見を頂いている。	年に2回、家族会を開催し、要望・意見を聞き、質問に答えている。リハビリに関して、施設内で出来るリハビリを実施してほしいという家族の要望に対して、前向きに取り組むように考えている。	家族会には、多くの家族が出席されているが、欠席者に対しても要望を聞き、多くの意見を集約し、より良いサービスにつなげて頂きたい。また欠席者にも議事録を送付し、家族会の様子やご家族の意見を紹介して頂きたい。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のミーティングで業務についてや行事の振り返り等、具体的にテーマを挙げ、意見・要望を出し合う場を設けている。また、管理者との個別面談だけでなく、法人担当者との面談もあり、提案等意見する機会を作られている。	毎月のミーティングや個別面談で職員の意見を聞いている。職員の要望により、夜間勤務をする女性職員の防犯対策として、玄関にカーテンを付け外部から見えないようにしたり、勤務体制の変更を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来る限り職員の就業状況を確認しながら、意見を聞き、反映していけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での職種別研修(計画作成担当者・看護師・ホーム長等)への参加、月に一度のホーム内研修を実施している。外部研修の参加案内まで積極的に行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループの事業所交流会や勉強会が行われている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自宅や入院先訪問、面談、また、担当ケアマネージャーやNS、サービス事業所等、関係者からの情報収集を行っている。情報をフロア職員で共有し、入居者、職員がお互いに安心出来るよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居者本人だけでなく、ご家族様の不安、要望もお聞きし、プランに反映させるようにしている。入居時にプランを提示し、意向確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム職員だけでなく、担当ケアマネジャーや病院相談員等の意見も聞きながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活習慣や能力に応じて役割分担をして頂いている。一方的な関係にならないよう、入居者様から学ぶことも多くあることを皆で話すよう意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、写真入りの手紙を送付している。また、面会時に近況報告したり、必要時は電話にて連絡を取り合っている。家族様の面会は頻回で、一緒に昼食を食べられたり、外出行事に参加して下さることもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人の面会や電話、ご家族との外出等でこれまでの関係継続が行えるよう支援している。地元の入居者様は、日々の散歩中に知人に声掛けをして頂くこともある。	知人が来られる際には、事前に予定をお聞きし、外出をしないで迎えられように配慮している。また、家族や友人が来られたら居室でゆっくりと過ごしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を職員が把握出来るよう職員間で情報共有し、必要時、間に入り支援している。一人ひとりを尊重することと同時に、皆で楽しむ時間作りにも取り組み、一緒に過ごす時間を意識している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後も、ご家族より近況報告の連絡を頂いたり、ホームへ足を運んで下さったりした。必要時、支援出来る関係が築けたら良いと思う。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様やご家族様からの意向をプランに反映し、また、生活日誌や申し送りノート等で情報共有できるよう努めている。ご本人本位はもちろんだが、その都度、ご家族にも状況をお伝えし、確認するようにしている。	定期的なアセスメントでは、本人の意向を把握し、ケアプランに反映している。また、日々の会話で把握された要望は、「生活日誌」に記入したり、申し送りで報告された後、フロアリーダーが取りまとめ、職員で協議している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、生活歴や趣向等、差し障りのない程度に聞き取りをしている。また、入居後も引き続き、ご本人やご家族との話の中から情報収集できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活日誌、申し送りノート、日々の振り返り、ミーティング等で現状の共有が出来るよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の振り返りやミーティングで意見交換を行い、計画書に反映させている。担当者会議へはご家族、看護師の参加、また、必要時は主治医にも参加頂いている。3カ月～半年に一度、若しくは状態に変化があった場合に計画変更している。	各利用者のケアプラン実施状況を検討する「ふり返る時間」を毎日設け、職員の意見を「モニタリングシート」にまとめている。また、定期的なケアプラン変更時には、「アセスメントシート」に職員の意見を記入している。ケアプラン作成者は、其々のシートの記載を参考にしてケアプランの見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを意識して生活日誌を記録するよう努めている。また、実践したことでだけでなく、入居者様のご様子等も記録し、職員間で現状把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望になるべく応えられるよう、その都度、職員間で話し合いを行い、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に入会し、地域行事へ参加したり、地域ボランティアさんに来て頂いている。地域のスーパーに買い物に行ったり。喫茶店や食事処に出掛け、地域の方に声を掛けて頂きながら楽しい時間を過ごしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時に説明を行い、数名の方は入居前のかかりつけ医を継続し、家族様で通院介助を行われている。専門医への受診は、基本、家族様にお願いしているが、緊急時ややむを得ない場合はホームNSで対応している。	本人・家族の要望でかかりつけ医を決め受診している。入居者の健康状況は看護師が、「医療ファイル」にまとめ、体調不良時には、各自の医師と連絡し対応している。日常的な健康管理については「医療的な対応に関する指針」に明記され、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護師が1名おり、日常的に健康管理を行っている。必要時、職員から看護師へ、看護師から主治医や薬局へと連携し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の担当相談員と連携し、入退院時の情報共有に努めている。必要時、病院に伺い、面談や情報収集を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針をご家族に説明している。この度、本社より新たに指針が作成され、再度、ご家族のご意向を確認することが出来た。必要時、関係者で話し合いを行い、方向性を共有しながら支援していく。	ホームとしては、「看取りは日常生活の延長線上にある」と考え、支援する方針であり、「看取り指針」を作成し家族に説明している。家族が看取りを希望されれば、同意書を取り交わし、家族・医師と相談して適切な支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命講習の研修を年に一度実施。状況により、個別に対応マニュアルを作成しているケースもある。事故・ひやりはっと報告を共有し、皆で対策を検討、再発防止に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練実施。地域の方にも参加頂いている。防災マニュアルを作成しているが、マニュアルの整備、職員への周知を強化していくことが課題である。	年に2回夜間を想定した消防訓練を地域住民も参加し実施している。災害時における地域との協力協定は、町内会とも相談し今後、検討する予定である。	年に2回の訓練以外に、介護度の高い方の避難誘導、利用者の避難経路の確認などについて自主訓練を行い、災害に備えていただきたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報のファイルは鍵付きの書棚に保管している。 言葉掛けや対応についてはケア向上委員会でテーマとして取り上げ、意識付けを行っている。	法人やホーム内の研修で「尊厳・プライバシー」について勉強している。ケアの質の向上を目的に「ケア向上委員」を作り、委員を中心に「言葉かけや対応」について、ミーティングで話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いを表出できる環境作り（職員の態度、対応、言葉掛け等）に努めている。否定せず、受容する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の流れや業務分担は決めているが、入居者様の状況に合わせ、臨機応変に流動的に対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月一回理美容の訪問があり、希望を受け行っている。家族様付添いで、馴染みの理容室へ通われている方もいらっしゃる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも職員が献立を決め、買い物、調理を行っている。一緒に買い物に行く方、一緒に調理をする方、配膳、片付けをされる方と、それぞれ得意な場面で活躍して頂いている。季節を感じて頂けるような献立作りを意識している。	毎回の食事は、入居者の要望を聞き献立を決めている。時には、プランターで栽培した野菜を使ったり、近所の人や家族の差し入れを利用して食事を作ることもある。栗の皮むきをして「栗ご飯」を作ったり、おはぎを作ったりと一緒に楽しむ機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	常勤看護師の助言を受けながら、職員で意見交換を行い、食事が偏らない献立を立てるよう努めている。状況に合わせて食事形態を検討し、実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎月の歯科往診にて、口腔内をチェックしてもらい、歯科医指導の下、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で個々の状況把握を行っている。トイレでの排泄を基本とし、ご家族様の意向もあり、紙おむつの方も一日に1、2度はトイレ誘導を行っている。また、リハビリパンツから布パンツ+パットへの支援も行えた。	各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。紙おむつなどをなるべく使用しない取り組みを行い、布パンツとパットに変更できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の把握、排便の記録等で状況把握に努めている。困難な場合は看護師による判断の下、指示を受け、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には午前中に入浴して頂いているが、要望があれば午後からでも対応している。また、希望者はほぼ毎日入浴されている。気が進まない方へはタイミングや声掛けの工夫を行い、場合によっては清拭・部分浴等で対応している。	基本的には、午前中に入浴していただいているが、入浴時間や回数に関しては、柔軟に対応しており、毎日入浴する方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	起床時間、消灯時間の設定なく、規則正しい生活が出来る範囲内でご自分のペースで休んで頂いている。夜間、眠れない入居者様は、見守り、傾聴し穏やかな環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局による居宅療養管理指導を受けており、薬剤師との連携を図っている。症状の変化については、看護師に報告し、看護師、医師、薬剤師で調整されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	関わりの中で興味のあること、熱中できることを引出せるよう努力し、プラン3表で役割の共有が出来るよう努めている。無理強いせず、楽しんで行えるような環境作りを意識している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買物に行きたい、散歩に行きたいという要望に対して出来るだけ応えられるよう努力している。また、季節が感じられるようホーム全体での外出行事を企画したり、ご家族様との外出を支援している。	外出を希望される方、気晴らしで買い物に行きたい方には、個別に対応して外出している。花見、観劇、宮島や岩国までの遠出などをホームの外出行事として行っているが、その際には家族へも案内をして一緒に参加されることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の判断により数名お財布を所持されている方がおられ、近隣スーパーでご自分で買物をされている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	特に制限なく、状況に合せ対応している。ご自分で使用することが難しい方は職員が代行している。2名の方が携帯電話を所持されている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月のカレンダー作りを入居者様と行い掲示したり、日常の写真や作品で季節感が出るよう心掛けている。台所からの調理の気配、ベランダの洗濯物の風景から生活感を感じて頂いている。	クリスマスなど季節を感じる飾り物をし、利用者に楽しんでもらっている。湿度・温度に注意し、快適に暮らせるように配慮している。玄関前のプランターには、ボランティアに手伝ってもらい花や野菜を育て、利用者に喜んでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事以外の時はソファやダイニング等、それぞれがお好みの場所で過ごされている。ベランダ側に向いた椅子で独りでゆっくり過ごされたり、時には他入居者様の居室を訪問されることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居当初から馴染みの家具を持参される方、入居後、少しずつ持って来られる方等、状況に合せ様々だが、ご家族様と話をしながら進めている。	利用者が居室に馴染めるように家族と相談しながら備品を整備している。ホームの居室が、今後、自分が住む場所であると理解できない方には、特に慎重に対処し、徐々に馴染みの物を増やし居心地の良い空間とするように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子の方が自走出来るような家具の配置を行っている。トイレ前に夜間のみパーテーションを置き、周囲を気にせず安心してトイレに行ける環境を作っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム青崎・みどりの家

作成日 2014. 1. 31

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議にご家族の参加がなく開催されている。	ご家族に参加していただき、より有意義な会議にする。	会議の議事録を閲覧して頂き、会議の意義を知って頂く。行事と併せて開催し、参加しやすい会にしていく。	1年
2	10	家族会欠席者から要望を聞く仕組み、欠席者へ内容を伝える仕組みがない。	より多くのご家族からの意見を集約し、より良いサービスにつなげる。	①家族会の出欠を確認する際、要望も記入できる欄を設ける。 ②家族会の議事録を全ご家族へ送付する。	1年
3	35	年2回の訓練以外にも自主訓練を行い災害に備えるべきである。	様々な状況でも対応できるように訓練・研修を重ねる。	年2回の総合訓練以外に、通報・消火・避難それぞれに絞った訓練や勉強会を開催する。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。